

カーテンの隙間から差し込む朝の光が、まぶたの裏をじんわりと照らしている。

スマホのアラームが鳴り始めた。

(……うわ、休みなのにアラームセットしちゃったよ……)

パッと止めてそのまま布団を頭まで引き上げた。
今日は一日、ゆっくり寝よう。そう思った時、ガチャ、と玄関が開く音がした。

(……あ。祐星だ)

幼馴染の祐星。

中学のときから祐星は、うちの合鍵を持っている。
最初は「緊急用」と言っていたのに、いつの間にか
「お前が寝坊するから」という理由にすり替わっていた。

廊下を歩く足音が、どんどん近くなる。部屋のドアが開く音。

（どうせ、どこかに行こうとかって言ってくるに決まってる。でも、せっかくの休日くらいゆっくり寝たい。今日は一日寝るんだから……！）

私はとっさに、布団の中で息を殺した。気配を消す。寝ているふりをする。うまくやり過ごせば、祐星は勝手に帰るかもしれない。一分待っても起きなければ、さすがに諦めるかもしれない。

「まだ寝てんの？」

呆れたような声が降ってくる。

（そう。そう！寝てるから、帰ってよ……！）

布団がすっとめくられた。冷たい空気が一気に入ってきて、全身が固まった。

「しょうがねえな」

そう言い、太ももに大きな手のひらが乗った。驚きで、身体が少し動いてしまった。

(なにを……っ)

手がゆっくりと動き始める。膝の内側から、するりと上へ。確かめるような動きで、一センチずつ這い上がってくる。

「んっ……う」

「俺が起こしてやるか♡」

付け根のぎりぎりまで来た指が、パジャマの上からおまんこへ触れた。迷いなく、ピンポイントで。

「ひゃ……っ♡」

思わず声が漏れた。

(やだ、どこ触って……っ！♡)

すすす♡ と割れ目に沿っておまんこを撫でてくる。

「あ……っ♡ ん……っ♡♡」

すりすり♡ と割れ目に沿って、ショーツの上からゆっくり撫でてくる。

すりすり♡ すりすり♡ すりすり♡

(やだ、そこ……っ♡ おまんこ、触ってる……っ♡♡)

「あ……っ♡ んん……っ♡♡」

ふにふに♡ ふにふに♡ と柔らかく押し込みながら、下から上へ。上から下へ。リズムを変えずに、淡々と続ける。

「あ、ちょっと濡れてきたか？♡」

くちゅ♡ と、微かに水音がする。ショーツがじ

わじわと湿って、生地が肌に張り付いてくるのがわかる。

「ああ……っ♡ん……っ♡♡」

くちゅ♡くちゅ♡くちゅ♡と、ショーツが愛液を吸い込んでびしょびしょになっていく。それでも祐星の手は止まらない。濡れた生地の上から、ゆっくりと割れ目を押し込みながら撫で続けてくる。

「ああ……っ♡♡ん、あ……っ♡♡」

「まだ起きないもんな♡」

（祐星の手、止めなきゃ♡でも寝てることに、なってるのに……っ♡）

私は声を殺して布団を握りしめることしかできない。

「もうびちょびちょじゃん、ここ♡」

足が内側に閉じかけた。膝を軽く押し広げられた。

「う……っ♡ あ……ん……っ♡」

「よーしよし、まだ寝てるよな？♡」

耳元に顔が近づいた気配がして、低い声がすぐそこで言った。

祐星の指先が、ぷっくりと膨らんだクリトリスを捉えた。

「ひっ……！♡」

「もう勃ってるじゃん♡」

くりくり♡と転がすように撫でられる。快楽を逃さない動きで、神経に直接触れてくるみたいだった。

「ああ……っ♡ んんっ♡♡」

（やだ……っ♡ そこ、クリはだめ……っ♡♡）

腰が勝手に動いた。逃げようとしているのか追いかけているのか、自分でもわからない。

「俺に隠し事できると思ってんの？♡」

「ああ……っ♡♡ ん……っ♡ う、ああ……っ♡♡」

「ま、言っても仕方ないか。お前は寝てるもんな♡」

祐星の手は止まらない。淡々と動き続けてくる。

「う あ……っ♡ んん……っ♡♡ ああ……っ♡♡♡」

パジャマの隙間から、指が差し込まれた。そしてショーツの中に手が侵入し、直接おまんこに触れた。ぬちゅっ♡ という音が部屋に広がって、全身の力が抜けた。

「ひ あっ♡♡♡」

（直接……っ♡ もうどうしよう……っ♡♡ 声が…
…っ♡ 止められない……っ♡♡）

祐星の指がゆっくり動く。濡れてるところを丁寧に
にかき回すみたいに、おまんこを撫でてくる。

「んっ♡ あ……っ♡ ああっ……♡♡ んんっ♡♡」

くちゅ♡ くちゅ♡ くちゅ♡ くちゅ♡ くちゅ♡
くちゅ♡

「ああ……っ♡ んっ♡♡ うあ……っ♡」
（どうしよう……っ♡ 音、してるっ♡ 部屋に全部
響いてる……っ♡ 止められない、止められない…
…っ♡♡）

腰が勝手に動いた。ビクビクと揺れるたびに、ますます指の感触が鮮明になっていく。逃げようとしているのか追いかけているのか、もう自分でもわからない。

「腰、動いてるぞ♡ 寝てても、快楽には貪欲なんだな♡」